

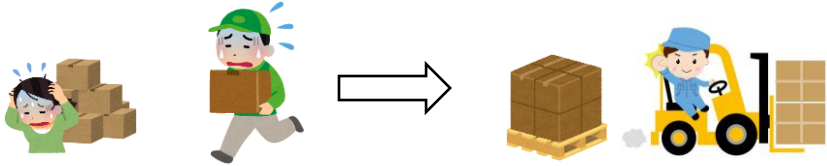
前回ヒアリング時（2024年10月）以降の管轄地域の物流状況

- ・ 前回ヒアリング時以降も、農産物物流に大きな問題はなし。
- ・ 生産者の高齢化や作付面積の縮小により青果物の出荷量が減少傾向にある中で、昨年の夏秋の高温や冬季の低温少雨が出荷量の更なる減少に繋がっている。これにより、トラックの積載率の向上が課題になりつつある。

2024年10月以降で生じた・想定された問題	その後の対応・結果、物流の工夫等
------------------------	------------------

2024年10月以降に生じた新たな問題は聞かれないが、これまで課題になっていて10月以降に対応、工夫された取組を下記に示す。

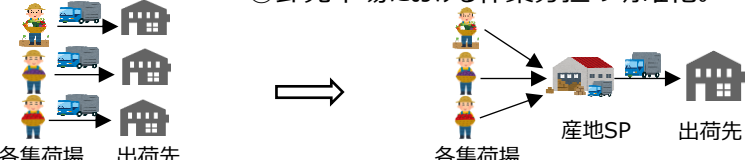
パレット化 未実施品目、産地でのパレット導入促進。



- ①いちご、きゅうり、ジャガイモ等において、レンタルパレットを活用した輸送試験を実施中。（福岡県、宮崎県、鹿児島県）
レンタルパレットの導入が遅れている産地に対して、導入に向けた働きかけを促進。（鹿児島県）
温州ミカンなどの柑橘類が先行しているが、中晩柑についてもパレット化に向けて、段ボールサイズ、内容量の見直しを検討。（熊本県）
- ②パレットを回収しやすい近隣の出荷量の多い市場への出荷は、ばら積みからパレットによる輸送に転換。（運送業者）

産地集荷場・出荷先市場の対応

- ①ロットの確保や積載率の向上に向けて、更なる産地集荷場の集約。
- ②少量多品目で多出荷先の冬春作の豆類について、積載率の向上。
- ③卸売市場における作業分担の明確化。



- ①来年度をめどに集荷場の集約計画を作成、2028年度には集約化。（福岡県）
補助事業を活用し、分散していた集荷場を集約化するよう各JAに周知。（宮崎県）
- ②各産地集荷場から産地ストックポイントに集約し、出荷先までの共同輸送や混載化を進め、積載率を向上。（鹿児島県）
- ③市場での荷下ろし作業について、運送会社から相談があった際には、その都度産地が各市場と協議の場を設置。（長崎県、熊本県）

2024年度総括（管轄の地域特性（立地・品目）を踏まえ、この1年を通して把握した課題等総括をお願いいたします）

- ・産地、運送業者、市場が連携を密にし、課題解決に向けて取り組んでいる。
- ・ストックポイント、パレット化やモーダルシフト（フェリーやJ R貨物）の活用により産地が安定的に出荷できる体制の整備に取り組んでいる。（福岡県、鹿児島県）
- ・運賃やパレット化による経費等が上昇している中で、販売価格への価格転嫁が課題となっている。（福岡県、長崎県、熊本県）
- ・現状、各市場に出荷できているが、今後、積載率の向上や運賃で採算がとれるよう、出荷先市場の集約化が必要となっている。（佐賀県）